

## 平成25年度大洲市がんばるひと応援事業 実績

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	交付額	事業の実績・効果	今後の取組方針	写真
1	龍馬脱藩の川下り&ウォーキング	大洲市観光協会 長浜支部	坂本龍馬とかかわりのある長浜で、坂本龍馬などの姿で川下りとウォーキングのイベントを実施し、龍馬とのつながりの再認識と長浜地域の活性化を図る。 ⇒屋形船船頭謝礼、屋形船運搬費、イベント保険料、仮設トイレレンタル料など	317,000	317,000	長浜町内の様々な団体に協力してもらって実施したことより、龍馬と長浜の深いつながりを再認識してもらうことが出来た。また、川下りに17名、ウォーキングに123名が参加し、同時開催した『赤橋自遊空間』、『長高水族館』、『スタンプラリー』にも多くの方が訪れ、特に『長高水族館』には今までで最高の523名が訪れた。 龍馬脱藩の川下り&ウォーキングだけではなく、同時開催したイベントにも人が多く流れ、点ではなく線のイベントとして実施することができたこと、長浜の様々な魅力を感じてもらうことができた。	今後も、行政や観光協会だけではなく、商店街や長浜高校など地域の人と協力して実施することで、地域が一体となったイベントにすることができる。それにより、商店街や水族館にも人が流れていき、町が活性化していくように長浜を盛り上げて行きたい。	
2	小学生『うかい』体験事業	大洲市観光協会 大洲支部	市内の小学5年生程度を対象に学校行事を利用して「大洲うかい」と肱川を知っていただく。鶴匠からの「鶴飼い」の授業を行い、子供たちによる鶴の餌やりを実施。屋形船では案内人による肱川や大洲観光の説明を行う。 ⇒鶴匠・船頭・案内人謝礼、救命胴衣等物品購入費、手引書等の作成費、ホームページ改修費など	1,150,000	954,000	市内の小学5、6年生を中心に『大洲のうかい』を体験して頂いた。教育現場に直接出向き事業内容を説明。各学校の反応も良く、6校の申請で326名の児童に体験して頂いた。鶴小屋での鶴匠の説明は、うかいだけでは体験できない貴重な経験であったと思う。また、屋形船では、案内人による肱川周辺の観光説明、船頭による肱川の自然説明を行い、十分な自然学習の内容であった。終了後に提出して頂いた感想文に表れている。市内の小学生が大洲の観光のメインである『うかい』『肱川』を知ること、自分たちの故郷である大洲の良さを改めて認識して頂いたに違いない。 この体験が、これからの大洲市の観光発展に繋がっていくと思う。	今後は、教育現場と一体となり教育活動の一貫としての取組体制を構築し、児童達が将来、大洲市の良さを市外にPRできるように取り組んでいきたい。	
3	白滝夢わらべ集中設置事業	白滝商工観光連盟	西予市在住で、全国的にも人気が高い夢わらべ(お地藏さん)を作成する陶芸家善めい氏の指導のもと、白滝夢わらべ教室会員とともにたくさんのお地藏さんを作成し、まとめて白滝公園に設置し、地域の憩いの場や新たな名所にする。 ⇒土台工事、夢わらべ加工・設置費、講師謝礼	301,000	297,000	地域住民の夢わらべ作成数は20体。今回のような大きな夢わらべ作りは初めての経験だったが、果敢にチャレンジして立派な作品ができた。今年の白滝紅葉フェスティバル期間中の日曜日は雨の日が多く、晴れたのは1日だけだった。従来であればこの悪天候だと観光客数は5千人程度に落ち込む可能性もあるが、過去6年間で最多となった昨年とほぼ変わらない1万人を越えたことは大きな収穫であり、地域からも評価されている。 全国的にも活動をされている講師による本事業は注目度もあり、地域住民も夢わらべに「癒し」を感じている。今後も地元の白滝公園への愛着にも繋がると期待している。	今後も魅力的で住民評価の高い夢わらべづくりなので、毎月第2木曜日に開催中の「白滝夢わらべ教室」の会員数を増やして、チャレンジしたい。この夢わらべを活用して、来年度はJR伊予白滝駅から白滝公園までの約500mの道路沿いの各世帯に協力を求めて「白滝夢わらべロード」企画に挑戦していきたい。	
4	光の切り絵 野外 幻灯 一画二驚展 ～愛・彩・食～in長 浜	長浜町商工会女 性部	長浜商店街を歩行者天国とし、名古屋市在住の光の切り絵作家酒井敦美氏を迎え、プロジェクターを利用して、建物に長浜の好きな場所や自慢できる場所を、光と切り絵を融合した映像で映し出す。 ⇒ポスター・チラシ作成費、プロジェクター・高所作業車等賃借料、イベント保険料など	785,000	732,000	当イベント全体の来場者は約3,000人であり、大変好評であった。なお、テーマ別については、次のとおり。 愛:愛の手紙を公募したところ7通の応募があり、らくさぶろう氏の朗読により皆に感動を与えることが出来た。 彩:笑顔の写真、長浜の名所の写真を光の切り絵と融合させたDVDを作成しプロジェクターで映し出すことによって、町内の人はもちろん町外の方に長浜を知ってもらう事ができ皆に楽しんでもらった。 食:100食限定のふぐ汁が、オープニング終了後15分程度で長蛇の列となり大好評のうちに終わることが出来た。	継続的な事業とする為には予算の確保が必至になるため、募金箱の設置等を行う。 写真の灯影を夜市や夏祭り等で行う。	
5	魅力ある地域づくり 事業	愛媛県立大洲農 業高等学校	①大洲エビネ会と連携し、栽培技術や新品種の育成に努め、エビネ文化の技術継承を図る。 ②地元特産品である「シイタケ」を利用して新商品の加工品開発を行なう。 ③南予地方に伝わる伝統野菜の「おうど芋」を含む野菜を原料とした「ベジタブルスイーツ」の研究開発並びにPR活動を行う。 ④肱川流域にある放置竹林を活用して竹細工を制作し、環境保全活動を図る。 ⇒必要物品購入費、講師謝礼、旅費など	1,265,000	1,185,000	①大洲エビネ会と協力してエビネ展の開催や各種イベントに参加し、大洲エビネの普及活動を行うことができた。また、エビネ培養技術の研究を行い、培養培地において成果をあげることができた。 ②特産品開発に取り組み、「スイーツ」や「トマトケチャップ」、「みそ」、「焼き肉のタレ」などを試作した。試食会やパネル展示などを行い、地域の特産品について興味を持ってもらうきっかけとなった。 ③新商品開発プロジェクトを立ち上げ、野菜ソムリエの方を招いての検討会を計4回実施し、新たな加工品を開発、おうど芋を使った加工品を研究中的のものも含め6品目開発することができた。また、横浜で開催されたイベントに参加し、大洲市のPR活動を行うことができた。 ④放置竹林を身近な問題として考えようと、肱川流域の水防竹林を活用した竹細工に取り組み、竹かごを製作した。また、肱川ふれあいまつりや大農開放講座において、竹細工の製作について50人の方に生徒が技術指導を行い、地域へ竹細工の魅力を伝えることができた。	①県外のエビネ愛好家との交流活動を実施し、大洲エビネの普及活動を推進する。また、倍数体作出技術を用いて、本物のエビネ作りに取り組むための研究を実施する。 ②地元農家やJAとの連携による収益性の追求、大洲市商工観光課などと連携し、さらに地産地消の推進や実績データを継続的に収集する。 ③地元農家やJAと協力して、生産量の増大を目指す。同時に地元の企業と連携して常に新しい加工品開発を行っていくことで、おうど芋の消費の拡大につなげる。 ④身近に使える竹細工を見つける。竹炭を利用した竹細工の製造方法を研究する。放置竹林の伐採面積の調査をする。	

## 平成25年度大洲市がんばるひと応援事業 実績

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	交付額	事業の実績・効果	今後の取組方針	写真
6	農業者(後継者)による大洲農産物の活性化事業	野菜生産出荷協議会 トマト部会 青年部	松山のスーパーの一角に大洲市コーナーを設け野菜を販売する。大洲市の映像、野菜、作っている農家の姿の映像を流し、大洲市農作物ブランド化の販路拡大と大洲市の魅力を発信する。 ⇒DVD製作費、タブレット購入費	240,000	240,000	セブンスター三津店・別府店にて生産者(担当者)5名で販促活動を実施し大洲農産物の消費拡大に直接消費者とふれあい交流を深め大洲産品のPRをした。 消費者に直接大洲農産物をPRすることで信頼を高め、生産工程等を映像で見せることで、より一層農家の生産現場に親しみを感じてもらえる事ができ、手ごたえを感じた。期間中とまと単体で100万の目標に対し400万程度もの販売取引をする事ができた。	今後も販促活動を積極的に実施し、消費者マーケティングを行いながら消費者ニーズに努め大洲農産物の発展に努力したい。 なお、ハクサイ・イチゴの映像制作は2月頃になったため、来年度にかけて活用していきたい。	
7	小学生スポーツ支援事業	肱川少年野球教室	肱川、河辺地域には、スポーツ少年団のようなものがないため、地元野球経験者などに依頼し、指導者になっていただき、野球を通して子供たちの体力・忍耐力の向上とスポーツの楽しさ、また、あいさつなどの礼儀作法を学ばせる。 ⇒バット、ヘルメット、バットケース等野球物品購入費	223,000	223,000	中学校入学前から野球を学んだことで、6年生の2名が中学校に入学しても野球部に入部し、引き続き野球をすることになった。在部の児童19名も引き続き教室に登録する方向になっており、少しでも地域間格差が解消することができたものと思っている。 小学校の統廃合前に学校が違う児童でも、全員の仲間意識が芽生え、練習中や試合中にも助け合い心を養うことができた。更に保護者が練習等に参加することにより、保護者・指導者間のコミュニティの醸成に効果があり、練習等に参加する保護者が増えた。	年度内に正式なチームを発足し活動することは出来なかったが、市内外のチームと練習試合を行うことが出来たことから、来年度の5月中には正式なチームを発足させ、7月に開催される大会に参加したいと考えている。	
8	豊茂イルミテヤまつり	豊友会	事業費採算面で取りやめとなった「豊茂イルミテヤまつり」を復活させる。平成24年度には、地域から熱いまつり復活の要望があり、簡単ではあるが実験的に実施していた。 ⇒ポスター・チラシ作成費、イベント謝礼、LEDランプ・ハンドベル等購入費など	691,000	691,000	地域の子どもたちが行事に参加したことで地域に関わりを持つ良い機会となり、青少年の健全育成と将来の地域振興を図ることができた。 また、地域外からの来場者も多く、地域内外住民のコミュニケーションを図ることができた。 自分たちの地域が少しでも明るく住みよい地域になるように、できることから積極的に取り組むことで、住民が力を合わせることの大切さをみんなで実感できたものと思われる。	今後は、各種催し物の販売利益や来場者の寄付、あるいは広告料などで賄えるように実施する必要がある。そのために、魅力あるイベントづくり、催し物の改良、スポンサーの開拓等を行っていき、毎年の運営財源・費用が好循環となるよう努めていく。	
9	戒川地区クリーン事業	戒川地区を守る会	山間部の道路管理について、高齢化が進み管理が大変難しくなっていることから、小型ブルドーザーを購入し、路肩に堆積した落ち葉・落石等の処理に役立てる。地域協力で今後も自ら維持管理をする。 ⇒小型ブルドーザー購入費	585,000	585,000	ボブキャットを購入することにより、労力をあまり使うことなく、予定していた年2回の道路整備を行うことができたことに加え、人力よりも効果が大きい整備ができた。 通常でも狭い管理区内の道路を整備することで、車の通行が良くなり、落石等の処理を行えたことで、交通の安全が保たれるようになった。	今後も地域の住民と一緒に整備を続けていき、安全な通行ができる状況を保ちたい。	
10	キッズプログラム&おおずアクティブチャイルドプログラム	特定非営利活動法人おおずスポーツクラブ	ボール・コーンを使って遊びの要素を入れ、運動リズム・動作を学ぶキッズプログラム、昼休み等を利用して、ボール等で体力向上を図るアクティブチャイルドプログラム、和太鼓を叩かせて自主性とリズム感の向上を図る和太鼓プログラムを実施。 ⇒外部指導者指導料・交通費、和太鼓購入費など	539,000	539,000	キッズプログラムに関しては、これまでの実績を評価して頂き未開催の保育所からも開催の要望を受け増やすことができた。人数に関わらず、市や園の配慮(送迎バスや合同で開催するための会場確保など)でクラブが目指す市内全域での活動に前進できたことは良かったと思う。また活動を通して、子供たちが元気に外遊びをする機会が増えたり、身体を動かすこと、スポーツをする楽しさを伝えられたことで、心身ともに発育発達の手助けになれたと思われる。定期的に体を動かす(スポーツをする環境)、それを体験できる場として、市内の4~8歳児すべてが対象とできるよう今後も取り組みを続けていきたい。	キッズプログラムに関しては、25年度から協賛金を募る活動を開始した。ネーミングライツ契約やユニホームスポンサー、さらには法人、個人と協賛金をお願いしご支援頂けるようになったので、今後はさらに地元の皆様にご支援いただき地域の子供たちは地域で育てるというモデルを形成していきたい。そしてこの活動を通して、子供たちだけでなく地域住民がスポーツをする事(関わること)で、人と人が触れ合い、健康志向で活力ある町づくりに貢献していきたい。	
11	海の生き物とのきずなプロジェクト~長高海物語Ⅲ~	長浜高等学校水族館運営協議会	多くの魚をさわって頂きたいため、ドチザメ等大型魚類も飼育しているが、手狭になっているため、大型水槽を購入し、水族館としての魅力を高め、さらに街の活性化を図る。 ⇒屋外大型水槽購入費	1,800,000	1,800,000	屋外大型水槽の設置など、体験・研究・教育の場の充実により、来館者数の数値目標である、8,000人を超えることができた。同時に、来館者の満足度の向上も図ることができた。今年度8月公開日の来館者数が401人に対し、屋外大型水槽設置後の9月は494人であった。8月は夏休み期間であるため元々来館者数が多いことを考慮すると、屋外大型水槽の集客効果が高いことが伺える。 このように、長高水族館の注目度が増した結果、今年度23件の報道(テレビ・ラジオ9回、新聞11回、雑誌等3回)があった。これらのうち県外での報道は7回あり、これまで以上に市や愛媛のPRを図ることができた。	長高水族館の注目により、長浜の町では「水族館を核としたまちづくり」の気運が高まっている。4月からは、長高水族館の一般公開日である第3土曜日に、JRが長浜観光のツアーを開始する。しかし全国的に見ると、長高水族館の知名度もまだまだであるため、来年度は長高水族館をモチーフにしたキャラクターを考案し、着ぐるみを制作したいと考えている。できればゆるキャラグランプリにも参戦し、大洲市を大々的にアピールしていきたいと考えている。	




## 平成25年度大洲市がんばるひと応援事業 実績

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	交付額	事業の実績・効果	今後の取組方針	写真
12	大洲キャンドルナイト#5	オオズ☆ロケット団	平成26年3月8日・9日に、約1万個のろうそくや提灯、行灯で大洲城近辺を彩る。その他、数々のイベントも同時に開催する。 ⇒ポスター・チラシ作成費、イベント出演料、舞台作成費、花火等演出料、廃油キャンドル作成経費など	1,889,000	1,889,000	【開催日】平成26年3月8日(土)～9日(日)実施 1万個(×2日間)の廃油ろうそくや提灯・行灯などで「大洲城」近辺を彩った。今年度は、五回目のアニバーサリーイベントとし、音楽出演者以外に大道芸人の方にも声をかけ、会場のあちこちでパフォーマンスを実施。そして、大洲城向かいに障子を設置し、プロジェクターでmovieを投影する「プロジェクションマッピング」を投影した。紙コップのキャンドルアートコンテストについて、大洲市内の小・中・高校の全校参加を達成することができた。「よさこいファッションショー」では市内外から100名以上の踊り子さんが集まり、踊りと共にファッションショーで魅了した。このようにいろいろな方の協力のもと、いろいろな時間で大洲城のあちこちを盛り上げた。	今後も、キャンドル事業だけに限らず、大洲市を魅力的に発信できるように、引き続きSNSなどを利用してロケット団の活動を伝えていきたい。	
13	支え合う元気な地域づくり事業 (過疎地域自立促進事業)	櫛生地域自治会	がんばるひと応援事業と過疎地域自立促進事業をあわせて実施。地元の農産物・海産物を利用したピザの開発研究、底引き網等の体験事業等を実施。がんばるひと応援事業の申請分については、国の補助対象とならない屋外ガーデンテラスの整備を行う。 ⇒屋外ガーデンテラス整備費	2,000,000	1,811,000	屋外ガーデンテラスの整備として、既存プレハブ倉庫改修、インターロッキング(51㎡)、テーブルセット、花壇工、校舎内外利用施設看板の設置、校舎内利用施設清掃等を実施した。これにより、地域活動団体が主体的にこれからの事業に取り組むことができるようになった。併せて、廃校校舎の利用も兼ねた活用が可能となり、廃墟から必要不可欠な施設へと転換された。 事業の主体的な目標は、利益を追求しながら地域に貢献できる、外部に発信できる事業展開を図ってきており、実現に向けた大きな成果と言える。	事業開始年度はある程度の活動が実施できるが、今後は継続的な事業展開が必要なため、協議しながら今後の事業に取り組んでいきたい。	
14	学生応援事業	長浜商店連盟	長浜高校生が学生手帳を提示すれば、商品の割引が受けられる事業、学習に地域の人に関わる事業、社会体験などを通じて就職を応援する事業を実施。高校生と地域の各イベントで交流を図ったり、長浜高校水族館と商店連盟が共同で町の活性化を図る。 ⇒アドバイザー・講師等謝礼、フェリー乗船料、ポスター等作成費など	587,000	422,000	生活応援事業として、高校生が学生手帳を提示すれば、長浜高割りとして商品の割引やいろいろなサービスを受けられる体制ができた。学習応援事業として、商業部の地域研究発表県大会の前には、町民らを集め発表会予行演習を開催し、見事四国大会出場を決めた。交流応援として、青島での交流会、龍馬塾での交流会を実施。その他赤橋自遊空間でのアンケートやイベントを学生らと住民が一体となって取り組んだ。長浜高校水族館部応援事業として、水族館の開館日に受付でお楽しみ抽選箱を設置し、長浜のいろいろな店の割引引きカードを入れ、長浜高校水族館来館者を町の商店街に誘導した。また、高校生による商店街の観光マップなども作成し、長高水族館開館日等に配布した。	今後も、住民と学生の関係性をより深め、地域が一体となって町全体で、地域活性化を推進していく。今までのような行政主体ではなく、地域住民が主となって実施し、行政にも支援していただきながら実施することで継続的なものとしていきたい。	
15	肱南 肱北 ふれあい市	大洲スタンプ協同組合	新町どか市や肱南まける市、大ちゃんふれあい祭りを通じ、商店街が協働し助け合いながら、育ちつつある若い後継者の人材育成や商店街の活性化を図る。 ⇒ポスター・チラシ等作成費、看板作成費、ワイヤレスアンブレット購入費、餅つき費用など	1,742,000	1,742,000	チラシを多く出す事が出来たため、消費者への認知が広がり、効果は大きかったと思う。しかし、地方のほとんどの商店街が問題にしている消費の底冷えは、なかなか改善されない。閉店が増加してイベントの開催も難しくなっており、費用面で反対するお店もあるのが現状だ。 しかし、当事業の実施にあたっては前向きに検討してもらえる事も多く、『肱南・肱北ふれあい市』を開催できた。特に、若い世代からは、ワイヤレスマイクを活用してイベントのパフォーマンスを充実させたいとの強い要望が出た。これは、『肱北ふれあい市』でさっそく活用され、お客様に喜んでもらえるイベントになった。	肱南地区は、若い後継者が都会から帰り継ぐ店もある。『まける市を残し、新しいイベントにも挑戦してみたい』との言葉に期待する。肱北地区は、どか市を開催する新町地区において、イベントにも慣れ開催の手順などがマニュアル化されている。良い意味でのマンネリ市を目指す。大洲スタンプ協同組合は、加盟店と商店街のコラボを、お店とお客様のふれあいを第一に考え取り組んでいく。	
16	ブランド米創造、地域活性化事業	ふるさと再生グループ「みらい」	高齢者などの農業困難者の農地を請負し、耕作放棄地の増加の抑制を図る。肥料にこだわり喜多山でとれた安全安心な米を袋詰し、喜多山の米としてブランド化を図る。 ⇒乾燥機、粳摺り機、計量器	1,768,000	1,768,000	3年計画の2年目であったが、9月4日の水害により喜多山地区の水田は矢落ち川の反乱で浸水するなど、甚大な被害を受けたことに加え、設備の設置の遅れなどにより、当初見込んでいた効果を十分に発揮するには至らなかった。 しかしながら、1農家のコメを使って、機械の使い方等を実習することで技術の習得に繋がった。また、ブランド米を購入いただいた料理店には好評であったことから次年度の販売に繋がるものと思われる。	肥料、農業について、使用量を規定値の半分にすることを目標とする。また、田植えの時期をずらすことで収穫時期が重ならないようにする。また、地域の小学生たちに、田植えや稲刈りしてもらって、喜多山米のおいしさや、栽培に興味を持ってもらう。	
17	大洲・長浜・肱川・河辺音頭振り付けガイド作成事業	大洲市連合婦人会	誰が見てもよくわかる大洲・長浜・肱川・河辺音頭のイラストによる振り付けを載せたガイドを作成する。このガイドを利用し、イベント等に使い、踊る際の参考として利用していただく。 ⇒振り付けガイド冊子作成費	283,000	270,000	10月6日の市民運動会前には冊子が完成したが、市民運動会が大雨のため中止となってしまったため、冊子を配布して運動会で活用してもらうことはできなかった。しかし、その後に市関係者や運動会関係者、市内の24公民館、連合婦人会会員に対して冊子を配布したことで、今後、地区の盆踊りなどの地区イベントなど様々な場面でご活用いただけたと思われる。 また11月2～3日に訪問のあったえりも町との交流イベントに際しても冊子を配布して、えりも町との関係者とも大洲の音頭を踊ることができ、他市との交流イベントの盛り上げにもつながったと思われる。	冊子とCDが完成したので、音頭を伝承しやすい環境が整備された。今後は連合婦人会に加盟していない地域婦人会へも働きかけて大洲の音頭を伝えていけるように活動したい。 また、冊子だけでは細かな音頭の動作を伝えることができない場面もあることから、音頭の振り付け動画を収録したDVDの作成にも取り組むことも検討している。	

## 平成25年度大洲市がんばるひと応援事業 実績

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	交付額	事業の実績・効果	今後の取組方針	写真
18	花と緑やすらぎプロジェクト	アクトピア大洲専門店会	風光明媚な土地が見渡せるアクトピア大洲の屋上を花と緑で埋め尽くし、安らげる椅子や机を設置し、フラワーガーデンや夏休み親子自由研究等多くのイベントを実施して、市内外の皆さんが安らげる環境を整える。 ⇒チラシ作成費、テント・机・椅子等備品費、イベント用材料費、楽器運搬費など	1,541,000	1,462,000	屋上緑化計画:夏前の緑化が、安くて実用的な給水設備の設置が遅れたため今年度中の開花とならなかったが、新たに芋の栽培、芋掘りを実施し、地域との交流を深めた。 芸術、文化事業:よさこい祭り、コーヒーセミナー、吹奏楽、ダンスパフォーマンス、アマチュアバンド。それぞれの事業で多くの反響をいただいた。特によさこい祭りの屋上演舞とダンスパフォーマンスは、演舞者の方からも高評価をいただいた。 地域交流事業:大洲グルメフェスタ、よさ婚支援事業、ふれあい餅つき、夏休み親子自由研究。それぞれの事業で、地域住民及び周辺住民との交流を図れた。	来年度以降も、新しいアクトピア大洲の可能性、魅力をアピールして、ショッピングセンターの役割を超えた、まさに地域住民、市内外の皆様が、雰囲気癒される、景色で癒される、イベントで癒される憩いの場となることを目指す。	
19	えひめYOSAKOI祭り事業	えひめYOSAKOI祭り振興会	本年度が10周年の節目の年を迎え、8月17日(前夜祭)、本番18日の2日間でYOSAKOI祭りを実施。今年初めて開催する前夜祭においては、本場高知の有名チームを招待して祭りの奉納をする。 ⇒会場使用料、ステージ演出料、警備委託料、チラシ作成費、CM制作・放映費、音響機材購入費など	1,998,000	1,952,000	本祭の参加チーム数は35チーム 計1,200人の踊り子、観客動員数は緑地公園特設会場で5,000人、市内演舞場、競演場含み総動員数は約12,000人であった。これまでの事業の見直しにより、今現時点での問題点、例えば参加チームの増加による実施時間の限界やそれを解消するための打開策を考えることができ、今後さらに増加した時の為の商店街演舞場における商店街の協力体制の強化を今年実施することができた。CM、WEBや、携帯端末を利用した広報活動により、市外、県外からの参加チームの増加(今年全35チーム中大洲以外は18チーム/昨年30チーム中大洲以外14チーム)や観客の増加により、地元市民のこの祭りに対する認知度や祭りの地元に対する貢献度が格段に上がり、それによって支援、協力も大きなものになってきた。	学生参加の学生実行委員会について、より充実させ、いずれは本祭そのものについても企画し発言できるようなポジションにしていくようにしたい。 また、今年初の試みの飛び入り参加連は、今後も継続し大々的にPRすることで、もっと参加者を増やし、「よさこい」を体験できる一つのメイン事業としていきたいと思う。	
20	「ゆるキャラ」を活かした大洲農産物の消費拡大などPR活動	たいき産直市 愛たい菜	愛たい菜のマスコットキャラクター「愛ちゃん」の着ぐるみをつくり、大洲市内外のイベントに参加し、大洲農作物のイメージアップ、販売促進を図る。 ⇒着ぐるみ製作費(愛ちゃん)	556,000	556,000	愛たい菜マスコットキャラクター「愛ちゃん」の着ぐるみを利用したPR活動については、昨年11月末の着ぐるみ完成以降、販売促進イベントや食育活動に4回に渡り使用した。その結果、ゆるキャラの愛くるしい容姿からPR対象者である一般の消費者や生徒児童に大変好評であり、着ぐるみを利用したPR活動による波及効果は大きいと実感している。今後も継続して販売促進活動や食育活動に利用していくことにより、大洲農産物PRのシンボリック存在となりうるものであり、消費者と生産者及び、生産者同士の結び付きを一層深め、農業者の生産意欲向上に繋がるものと確信する。	今後も計画的かつ効果的な着ぐるみの有効活用に向け、地場農産物の消費宣伝及び、地域農業の理解促進に努める。	
合 計				20,260,000	19,435,000			